

科長 助役の「言い訳」に矛盾が

東海労組合員が乗務を降ろされ、かつ日勤とされた唯一の理由は「酒臭い」ということでした。アルコール検知の結果ではありません。ところがその「酒臭い」に矛盾と疑問が沢山あります。幾つもある矛盾点、疑問点のうち、ほんの一部だけを紹介します。

そもそも出勤点呼を受けた時、運転助役は「酒臭い」には気付いていないのです。「指摘」は乗務点呼が終わりかけた時だったのです。その理由を助役は、「〇〇さんは、ぼそぼそと言うので気が付かなかった」と説明しました。しかし、乗務点呼の終かけた時に指摘をした時の様子を助役は「確認した時はすごい臭いだった」と大げさに強調しているのです。出勤点呼後か乗務点呼中に酒を飲んだとでも言うのでしょうか。何とも適当な 言い訳 です。

さらに、実際に近づいて臭いを嗅いだのは1人だけでした。その臭いも「酒臭い」ではなく「柿の腐ったような臭い」（この表現自体が人権問題でもあるが）と言っているのです。にもかかわらず「複数の管理者が臭いを確認した」と言っています。確かに何人かの科長や助役から事情を聞かれたため、話しはしているものの、臭いを確認されてはいないのです。ただただ、「酒臭い」としか言えないのです。乗務停止のためだけの 言い訳 でしかありません。

これ以上、矛盾点を明らかにすると更なる 言い訳 の材料を提供することになるので差し控えますが、デタラメだからこそ、科長や助役が 言い訳 をすればするほど矛盾が拡大するし、言い訳にもならない 言い訳 を重ねなければならないのです。

すべての所員に向けられる 労務管理の強化を許さない

私たち東海労は組合員を狙いうちにした、でっち上げ「酒気帯び出勤」を認めないし、許しません。でっち上げを理由にして一層、とりわけプライバシーに関することにまで入り込んできます。労務管理が私生活にまで及びます。イヤだ！ と言いましょ。